大阪駅ステーションシティ

駅（ステーション）には愛着がある。とりわけ国鉄時代の越美南線「深戸駅」には、鉄道員（ぽっぽや）の息子として懐かしい思い出がある。本当に小さな駅舎であるが、そこは地域の人たちの「交流の場」でもあった。また、駅で思い起こすのは寅さんや健さんの映画である。寅さんが何時間も列車を待つ小さな駅、健さんが「出発よし」と列車を見送るシーンがわすれられない。

最近の駅、大都市の巨大ターミナルは、ひとつの「まち」のようである。「駅なか」ビジネスという言葉のように、ショッピング空間としても集客に力が入れられている。関西の一大ターミナルであるＪＲ大阪駅は、写真のように大きく変貌をとげた。2011年５月４日に開業した「大阪駅ステーションシティ」は、その巨大なドームなど独特な建築に注目が集まる。大阪に行った折には、いつも写真上右のように、橋上駅（南北自由通路）から列車を眺めたりしている。

サイトによると、今回のプロジェクトでは、駅整備とまちづくりの視点に立って、「抜本的な駅改良」「広場・通路の整備」「新北ビルの開発」「アクティ大阪増築」を４つの柱とする。「駅とまちがひとつに。感動と発見にあふれた、新しい大阪駅の創造」を目指すとしている。

写真下右は新装なる「グランフロント大阪」に向かう人たちである。梅田貨物駅を中心とした地域（通称、梅田北ヤード）の再開発が行われている。巨大なビジネス空間ができ、大阪駅から「うめきた」と呼ばれる地域に人の流れが続くようになった。これもサイトによると、「グランフロント」という名称には、大阪の新しい玄関口にふさわしい「世界に開かれた最前線のまちであり続けたい」という思いがこめられている。

名古屋駅（名駅）地区も、タワーズ建設を契機に開発がすすみ、ビジネス空間が整備されてきた。現在、リニア中央新幹線開業を見越して、名駅の改造が計画されている。名駅にどのような「ステーションシティ」が誕生するのであろうか。

（2014年12月12日）